



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No.65

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-8-6
東京スポーツ会館 301号室
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491
ホームページ <http://www.jsera.jp/>
E-mail jsera@jsera.jp

(2012/8~2013/7のスローガン)

次代に向けた プラス考動を



全国大会売店活動 その原点を見直そう

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 重森 仁

6月28日、本州最北の県、青森の昼は、日本列島が短くなってしまったかのようであった。私の住まい、滋賀県から北北東に1,100kmも移動したのに、暑さは変わりなかった。最近、南北が逆転したような気温状態だっればしばしばお目にかかるようになった。激しい気象現象と気温の乱高下は、温暖化のせいと思われるが、この頃の社会、そしてこの業界の映し絵とも見て取れないでしょうか。

外とは対象的にクーラーの効いた快適な部屋で、北海道・東北ブロックの総会が開催されました。青森（福士大二 理事長）主幹組合の心意気に高揚し、リンゴの香りに癒され、JSERAの活動に、新たな思いでアクセルを踏むことになれそうです。更に、挨拶の中で、JSECの新専務理事 星野重夫 様のお話を聞き、全国大会の売店運営について、今一度考える時との思いも強くしました。

その数時間前に、2016岩手国体の準備に取り組んでいらっしゃる 佐藤佳明理事長、藤澤進事務局長さんと盛岡市内の組合事務所でお会いし、売店活動に対する哲学、意気込み、そして準備の進捗状況をお聞きし、組合活動の思いを共有し、胸を熱くしました。大会売店は、大

会を盛り上げようという趣旨でスタートしているものですが、我々組合員（小売）からすれば、自分たちの商圈で、メーカー・卸さんが、直販して行くのだからそれ相応の見返りがあってしかるべきとの考えがあります。メーカー・卸さんからは販促活動の一環であるし、また、関係協会に協賛金を払っているからこれ以上負担したくないとの思いもあります。ある意味、売店活動は、時として三層間の懸案とも、三層協力の試金石ともなるものかもしれません。

全国3大会の売店運営方法は、諸先輩方の努力で、三層の思い、大会協力への精神、地域スポーツ振興、社会的責任等を勘案しJSECとして結実できたのであって、その想いを大切にしなければいけないし、他の全国大会やブロック大会等の売店活動にも反映させるべきと考えます。

私は、選手としてソフトボール競技歴は40年、役員として20年ほどになります。市のソフトボール協会の理事長としては7年ほどになりますが、その間、日本ソフトボールリーグ女子1部リーグ、全日本教員選手権などを市に招致し、役員一同協力して運営してきました。たとえば、日本リーグ女子1部リーグは北京オリンピックの直前で、上野投手など日本代表選手の活躍

に胸を熱くしました。地域の中学校ソフトボール部に新入部員が20名以上（例年の3倍以上）入部し、大いに活性化したことを覚えています。地域のスポーツ振興に寄与できたことを嬉しく思いました。全国大会等ビッグな大会を地域で開催する意義の一つだと思います。このときの売店活動も大会を大いに盛り上げ、地域スポーツ振興に寄与するものと思えば、目先の利益を越えた地平に立てると思います。スポーツ振興の結果として三層が潤うと言う「耕し、育てる」原点に立ちたいものです。

最近、JSECの枠組みは機能しているものの、国民体育大会やインターハイにイベント運営会社に関わる（それには、運営費不足、予算削減などの影があるのだが）ようになり、様相が少しずつ変わってきたと思われまます。JSECの枠組みに外圧がかかっていると思われる状況が顕著になりつつあります。更に、岩手国体を機に大きな様変わりがあるのではないかと心配されます。

岩手国体の場合、復興事業と平行して行われるから、運営費不足、行政の予算削減は当然予想されますが、更に行政側の人手不足も追い討ちをかけそうでありまます。復興に重点が置かれるのは当然ですから、国体運営の方は民間に頼るケースも出てくるのではないのでしょうか。現に、岩手国体の準備にはすでに、イベント運営会社の社員が相当数入っているとの話も聞きます。そうなれば、組合員（地域スポーツ専門店）の意向が反映され難くなる場面も出てくるかもしれません。一方的に押し付けられることも多くなるかも知れません。そうならないように、我々の想い、地域の想い等を実行委員会に届ける努力が、尚一層大切になってくると思われまます。

三層協力の理念のもと、売店運営において、組合（地域の小売店）がすべきことを今一度考えてみましょう。結論的に言えば、最大の課題は、売店の立地であろうと思います。最良の場所に売店のテントを確保することでしょう。イベント運営会社が仕切っている場合は、徐々に状況が厳しくなっています。岩手の藤澤事務局長が「国体、インターハイが来れば、収益が

得られるような昔の状況ではない。既得権でなくなりつつある。当然、資金も必要だし、アウトサイダー、異業種批判の愚痴を言ってる暇などない！」、「国体の実行委員会に、組合が関わってくれないと乗り切れないと思わせる心意気と戦術（三層協力のもと）が必要」と語ってくれたように、JSEC・各メーカー・卸、NESさんなどと連携し、戦術を練り直す時期に来ていることは間違いないでしょう。

更に藤澤さんは、岩手国体はこうやって成功させると詳細な計画を語られ始めましたが…。これ以上は関係各方面との調整が終わらないと書けないからここで止めることにします。

今年の東京国体のように、物理的に（会場が狭いところが多い）売店確保が厳しい状況も重なれば、困難を極めて来ます。国体、インターハイ、全中大会の事務局、実行委員会、関係団体と早くから密接に連携を取りつつ、関係者を共感させられる心意気と戦術が必要です。そのためには各都道府県組合が法人であること、早くからお役立ち精神のもと関係各位の事業に協力すること、何百万円もの協賛金が用意できることなどの高いハードルが想定されます。我々だけでなく、出店メーカー・卸様にも相当なハードルが用意されそうです。それぞれが自身の主張をする域を越え、真の三層連携が必要であることを共に自覚したいところです。

もちろん、スポーツを愛する組合員が目指すところは、各大会が大いに盛り上がり、成功を収め、地域のスポーツ振興に寄与することだから、そのための最大限の配慮を忘れてはならないことは言うまでもありません。それが、地域に根ざした組合の存在意義であろうと思いまます。

岩手国体までも、今年の北部九州高校総体、東海地区の全国中学総体、東京国体、そして来年以降、南関東、近畿、四国、北海道・東北、長崎など全国各地で三大大大会が予定されています。厳しい状況は続いています。関係組合の奮闘を期待するとともに、JSERAもそれに応えなければなりません。共に頑張りましよう。

☆ JSERA 中部ブロック協議会『愛知大会』を終えて

感謝の言葉

愛知県スポーツ用品商業協同組合

理事長 土赤光宏

おかげさまで愛知大会には、わざわざ佐々木恭一理事長様（大阪スポーツ用品卸商業協同組合）と羽田野洋常務理事様（東京スポーツ用品工業協同組合）、星野重夫専務理事様（JSEC）にご臨席いただきました。

今回の愛知大会、ご出席いただきました組合員のみなさまには、学び得るものを感じ取っていただければと思い取り組み実施させていただきました。自分が参加して感じた事は、古き良きものを堅持し、新しきものも取り込んでいくことも必要なんだと感じました。これからも熱誠ある人生を歩んでいきたいと思えます。

参加いただいた卸・メーカー23社（23名）、JSERA 中部ブロック7県42名（内、愛知県組合員20名）総勢65名での大会となり、皆様からは心温まるお言葉をいただき実りある大会であったと感じております。

「吉田栄勝氏講演会」の感動の言葉

息子さんが小児ぜんそくになったことで、息子さんにレスリングを教え病院にも通院させていた高校生の時、たまたま試合の日と通院の日が重なり、病院に日にちを変えて欲しいと頼んだら「この子の命がかかっているのに、それでも病院に来ないで試合に出すんですか？息子さんの命とレスリング、どちらを取るつもりですか？」と聞かれて、栄勝さんは、それでも医者に『試合に出します』と答えたそうです。息子さんには、『おまえ、死にたくなかったら自分の力で治せ』と言われたそうです。現在息子さんは、結婚もされこどもたちは、栄勝さんにレスリングを教えてもらっているそうです。

<皆さんは、言葉を聞いてどのように思われましたか？>

T氏……日々の行動から出てくる自信と、信念を感じさせられましたね。

S氏……その時、即断出来る何かを栄勝さんは持っていたんでしょうね。

凄いな～!!

K氏……俺だったら、ようそんな行動出来んわ。嫁さんに、何考えてんねんて言われて恨まれるやろうな。



日 時 平成 25 年 4 月 25 日 (木)

場 所 東京スポーツ会館 4 階会議室

■委員会報告

(活性化委員会)

* 体育の日の活性化についてアンケート調査を実施予定。

(共生委員会)

* 販売促進活動の正常化のための懇談会を 3 月 13 日 (大阪) 4 月 24 日 (東京) で開催。

次年度は体育器具メーカーを対象にするか検討中。

(総務委員会)

* 全国理事長会議での上治丈太郎氏、橋本聖子氏の講演内容の DVD を作成し、安全点検の手引書と橋本氏のリーフレットを一緒に各都道府県組合へ発送。

(会計)

* 今期の全国理事長会議の収支報告。

■議件

1. 次期全国理事長会議日程、宿泊の件

* 日程は平成 26 年 2 月 4 日 (火)、会議・宿泊はニューオオサカホテル (新大阪駅より徒歩 3 分)

1. ショッピングバッグ値上げの件

* 石油製品の高騰を受け、値上げを検討

A セット・・・11,000 円 → 12,000 円

C セット・・・11,000 円 → 12,000 円

A C セット・・・16,500 円 → 18,000 円

平成 25 年 6 月 1 日より上記価格とする。

1. アジアロイドジャパン契約の件

* スポーツ安全メガネの発売以来 JSERA へ独占的販売をお願いしたが、結果が振るわず解除の要望があり、検討の結果、独占的販売を解除する。

1. メーカー直売の件

* JSERA よりメーカー・卸へ各種大会の売店出店や商品の提供等については必ず各都道府県組合へ相談する旨の通知をする。

1. パソコン替えの件

* 事務局のパソコンが古くなったため検討した結果、買い替えとする。

1. 全国大会 (島根) の件

* 宿泊ホテル、研修会の内容、参加料などを検討したが決まらず、次回理事会にて決定する。

1. JSERA ホームページの件

* ホームページに活動状況を掲載する案もあったが、レポートとのかぶりもあり、検討が必要。フェイスブックも絡めて継続的に審議。

1. 全国高体連契約の件

* JSEC より売店の販売手数料を改正するよう要望があり、検討したが結論は出ず、JSEC と再度交渉の上、次回理事会において決める。

次回理事会 平成 25 年 7 月 11 日 (木)

第14回 定時総会・全国大会開催に向けて 縁結びの地「島根」にてお待ちしております (大会期日 2013年10月24・25日)

島根県スポーツ用品組合

理事長 浅津博行

まずは前年度開催されました北海道スポーツ用品小売商組合の理事長他皆様盛大にまた成功裡に収められましたことお慶び申し上げます。お疲れ様でした。

そして今年はいよいよ中国ブロック協議会で受けることになり島根県で初めの開催を迎える運びと成りました。

今年のご周知のように出雲大社「平成の大遷宮」の年であります。

平成20年出雲の大社（おおやしろ）の御修造のため大屋根ですっぽり覆われてから5年の歳月をかけ本殿を始めすべての宮の屋根が新しく葺き替えられ本年5月10日無事に本殿遷座祭を終えました。

当日はあいにく朝から雨が降っていましたが、遷座祭が始まる午後7時の少し前6時半頃からピタッと止み御仮殿にお住いの御祭神、大国主命ができあがったばかりのご本殿に御遷りになられる「本殿遷座祭」が厳かなうちに無事終わりました。と同時に祝いされているかのようにザーッとまた雨が落ちました。これにはテントで息を潜めて参列していた皆から“おおっさすがですね”

とあちこちから歓声が沸きました。それから11日は「本殿遷座奉幣祭」12日は「本殿遷座奉

祝祭」14～16日は出雲大社例祭と続きました。

また「出雲大社平成の大遷宮」を奉祝し5月12日から6月9日までの29日間「出雲大社東神苑」に、1,500人収容の雨天対応型特設ステージを設営され常時日本古来の伝統芸能を中心に上演されました。島根が誇る出雲神楽、石見神楽をはじめ東日本大震災で被災された地域の皆様による郷土芸能などの催し物で連日にぎわいました。

遷宮にあわせて出雲市大社町ではそれまで旅館街がひっそりと立ち並んでいただけの門前町の通りを石畳に改修しその両側には色々なお店を開業してお越しいただいた皆様にゆっくりそぞろ歩きをしながら楽しんで頂けるように改修しました。この通りは「神の門」と書いて「神門通り」と言いここからご縁が始まります。観光案内所も「神門通りおもてなしステーション」という名前です。

また出雲地方は旧暦の10月から神在月（他では神無月）といって全国より神々が出雲の大社にお集まりになり様々な会議をされ、11月15日の神迎え祭までまた色々な行事が催されます。

そのご縁の地出雲を抱えます島根県で開催される第14回定時総会・全国大会には是非大勢のご参加をいただきますようによろしく願っています。

『体育の日』ボールを贈ろうアンケートまとめ

活性化委員会

このたびは、『体育の日』ボールを贈ろうアンケートにつきまして、全県の皆様からご協力いただいた事心より感謝申し上げますと共に意識の高さに感激致しました。ありがとうございました。

総合的にみて分かった事は、多年実施している県に対して、施設の方からは「スポーツ業界にふさわしい活動である」と、良い評価を得ている言葉が多く嬉しさを実感出来る事が分かりました。これは、今後も継続して行くことの必要性と、いただいた意見を基に、これからの取り組み方について早急に取りまとめることが大切であることも良く分かりました。これを基に理事会で協議し今回からでもさらに喜んで頂ける取り組み方法で実施して行きたいと思えます。決定事項につきましては、各都道府県組合理事長様へご案内致します。

項目別に見てみると、

①贈り先について

60%の県が毎年養護施設へ贈っております。方法としては、1)何年に一度、2)毎年複数の施設、3)県担当課からの指示。ほかに、福祉施設や災害に遭った小学校にも贈られた県もありました。

②施設への贈り物について

47%の県がボールを贈ることにしています。希望を聞いてからする県がほとんどでしたが、中には毎年サッカーボール10個と決めている県もありました。ほかに、3県はシャトル。要望としては、ボールを使って遊ぶ用具でも。基本『ボールを贈ろう』だから、ボールが良いという意見もありました。

③費用について

JSERAからの補助金増額を40%の県が希望していました。一部の県は、現状の補助金額でも助かりますとの回答もありました。

④県独自の実施事例について

『ボールを贈ろう』事業については、現在のところありませんでした。今後、サッカー選手を呼んで企画実施したいと思っている県が1県ありました。

⑤今後の取り組み方について

55%の県が今後も継続して行くと回答を寄せていただいております。また、実施していない県につきましては、今回のアンケートをご覧いただき検討いただければと考えます。提案として、JSERA本部事業として、実施してはどうかと言う提案をいただきました。

結びに、今回のアンケート結果、各県の取り組み方にはいろいろな考え方がありました。アンケート結果を基に、より一層充実したJSERA『体育の日』ボールを贈ろう事業にしたいと考えております。

貴重なアンケート結果につきましては、項目ごとにまとめ、複数同様の答えがあるものについては件数(県数)を記入し、簡潔な言葉にして記入致しました。

皆様に役立てていただける様JSERAレポートに記載させていただきましたのでご覧ください。

『体育の日』ボールを贈ろうアンケート結果

①贈り先について(養護施設へ贈っていますが、贈り先(福祉施設)についてご意見ください)

- ・小学校・幼稚園・保育園
- ・福祉施設(老人介護施設・知的障害者施設・支援学校)
- ・支援施設に限定する必要なく、その地域の情勢に応じた贈り先でいいのでは
- ・県に選んで頂く
- ・現状で良い (16)

②施設への品物について(基本ボールを贈ろうですが、品物についてご意見ください)

- ・ボールで良いと思う (22)
- ・シャトルコック (3)
- ・相手に合ったスポーツ用品(失われた機能の回復、新しい興味から元気を取り戻すための道具)
- ・希望するスポーツ用品 (7)
- ・ボールを使用したスポーツ用具(卓球ラケットなど)
- ・子供たちが体を動かすのが楽しいと感じるもの
- ・ボールにこだわらなくてもよい

③費用について(例年 JSERA より補助金(¥10,000)を送金しておりますがご意見ください)

- ・具体的増額希望している県数と金額は、20,000円 (3)、30,000円 (1)
- ・予算の1/5・1/3補助を希望する
- ・多額(例 50,000円)実施組合に対し増

額補助の希望

- ・組合加盟数に準じて補助金額を決める (2)
- ・もう少し増額 (11)
- ・少なすぎるのではないかと (2)
- ・現状で良く、とても助かるし感謝している (14)

④県独自の実施事例などについて(活動実施例:プロスポーツ選手と一緒に遊ぶの内容を教えてください)

- ・現在は、実施していないがこの先サッカー選手を呼んで企画実施したい。

⑤今後の取り組みについて(今後の取り組みについて率直なご意見をください)

- ・組合の活動の一環として社会にアピールできるように大きな事業にしていかなければならない。(2)
- ・予算的なことも含め、中身をもっと改善していかなければと思う。
- ・全組合で行うべき。
- ・取り組みを組合として広報するよう取り組むべきである (2)
- ・より関係強化のために、各社の協力を望む
- ・組合員の利益向上と組合員の付加価値技術向上を組合員全員で考えていきたい。
- ・贈る相手、物等再考の時期に来ているような気がする。
- ・近年実施していない。今後も実施予定なし (3)
- ・継続・維持 (26)

『持続可能な成長』を

富山県スポーツ用品協同組合

理事長 吉居 正

表面的には、副理事長が理事長に格上げになったというごく自然な流れにも見えますが、個人的には正直いって「なぜ自分がこんな困難な時期に、誰も喜ばない役を引き受けなきゃならないんだろうか?」とか「こんなにも組合に対して無知な自分でいいんだろうか?」とかずいぶん葛藤しましたが、鶴見元理事長初め、たくさん先輩が永々と築き上げてこられた「組合」を消滅さる訳にはいけないという思いに達し、微力ながら理事長を引き受け職務を全うしようと決意しました。またこの機会を与えてくださった組合員の皆様に感謝したいと思います。

気が付けば平成6年の富山インターハイ時に50以上あった組合員が本年には23にまで減少してしまっています。しかし今残っている店は、皆幾度もの大型店出店や少子高齢化やスポーツ離れの嵐をくぐりぬけた、しぶとい「免疫保持者」です。それぞれの個店が、なんらかの誰にも真似できない個性的な「得意技」をもって現在もサバイバルしていると承知しております。

私はこの23のメンバーと共に県の組合に掲げるキーワードは、「健全化」「安定化」「透明化」です。この三つを以て組合の「持続可能な成長」を等身大で進めていこうと思います。

最後に最重要課題の後継者問題があります。しかしここでもう一度、私自身初心に帰って自分たちの子や孫に「スポーツ店はまじめにコツコツとやってさえいれば、けっこう楽しい職業だよ。」と、胸を張って勧められる様な店、組合、業界になれる様に努力したいと思っています。

全国大会や全国理事長会議に出席の折には初心者で緊張していますので是非、温かいお声をかけてくださいますようよろしくお願いします。

はいさい（こんにちは）

沖縄県スポーツ小売商組合

理事長 城間 力

此の度、大嶺前理事長の後任として3月の定例総会に於いて新理事長に就任致しました城間力と申します。宜しくお願い致します。

沖縄県スポーツ小売商組合は、2010年の全国高校総体を目的に平成13年に設立され、現在25社にて組織運営しております。

インターハイの翌年、九州ブロックの総会を関係各位並びに九州各県の組合のご協力の許、全国屈指の観光立県沖縄のリゾートホテルで盛大に開催させて頂きました。

この2大行事を無事成功裏に終わることが出来たのは、全組合員の頑張り・協力・チームワークは勿論の事ですが、役員の皆様の東奔西走・獅子奮迅の動き・特に大嶺理事長の働きがあればこそこの事です。

難儀はしたくない・役員はしたくないと内心思っているところ、この役職が自分に廻ってきました。

今、目前の目標・目的・行事がなく本来の組合活動が求められています。

先月、一新された役員「第一回理事会」が行われ（合同セールは？合同購入は？コンペは？）などの意見、提案が次々と出され「案ずるより生むがやすし」ナンクルナイサ（どうにかなる）の精神で肩ヒジはらず自分の出来ることから少しずつ始めていこうとおもいます。

先ず大事にしたいのが、広報活動で組合員に現状を知ってもらい、理事会・三役会・諸々の会議録情報を発信することや、同業者で無関心気味の非組合員・一般の方々にも広く組合の存在を知らせたいと思っています。

最後に積極的に九州・全国の方々から情報を求め伺い、自分自身を成長させ、沖縄県小売商組合の成長・発展に貢献します。

ご指導・ご鞭撻宜しくお願いします。

“返事べっぴん”

福井県スポーツ用品協同組合
理事長 竹原和彦

我々の年代の人だと沢村貞子という女優が居たことを覚えている人が多いと思う。名脇役で、生涯で100本以上の映画にも出演し、随筆書も出しているという人である。

この人が小学生の頃、浅草の自宅の近くにパン屋さんがあって、そこには一人の娘さんが居て親しくしていたそうである。

明るくて、店の人気者というか近所でも評判の愛想良しで“返事べっぴん”“あいさつべっぴん”等と呼ばれていて、ていねいなおわびの仕方や明るい挨拶、キチットした返事がこの人の大きな魅力になっていたと言われている。

“キチット返事をする”という事は美人の要件であって、返事が下手な人は相手からみるとお互いの関係を大事にしていけないように見えてしまうのかも知れない。

我々は学校や客から時々電話でなくて、FAXで注文をもらう事がある。それには品番やカラーサイズがキチット書かれている。

そんな時、「やった！チームで注文がもらえた…」と、嬉しくなって、実は喜んでいるのだが、それをメーカーや卸へ手配するだけでその発注の客に対してその嬉しい気持での返事をしていない事がある…。

発注した客の立場からみると、「ありがとうございます。早速手配させて頂きました。明日の納品になります。」というような返事があったら発注した“かい”があるし、注文して良かったと思う事になるのではないだろうか…。

それが毎日の忙しさに追われているから、発注さえ出来ていればそれでよしという事で、機械的な対応の仕方だけになっているとしたら、どうだろう…。急ぐ時は「どうなっているんだろう？」という不安で発注者の方から「FAXでお願いした品はありましたか？」という電話での確認になってしまう事がある。電話やFAXで、注文のお礼とか結果の報告が出来てこそ役割が果たせた事になり、相手の気持にもふれる“返事べっぴん”という事になるのではないかと思う。

メーカーや卸と我々小売店との関係では、注文があるのはあたりまえになっているから、毎日のFAXやメールでの注文の機械的なやりとりが最も効率的だと思われる。在庫が見えての発注の時は良いのだが、それが出来ない時、急いでいる時に限ってその返事がなかなかとれない事が多いから、その時の対応がいつも問題になってしまう事になる。

「一体どうなっているんだろう…返事はまだですか？」という客の催促に卸からの返事が遅くて間に合わない事が多いが、毎日の忙しい営業担当への催促は、いろいろ考えてしまうと難しい時がある。しかし、卸にしてみると、いろんな小売店からの注文への対応だから、順番もあるし、状況もあるから、時間がかかる事も分かっているのだが、返事のないままが多いから、こちらも仕事が手につかず気になって「返事を早くして！」という、いやな催促になるが返事は大切である。

最近何度も何度も催促しても“なしのつぶて”で返事がないままという事があった。「どうなってるの？」との問い合わせに、やっと「問い合わせ致します。」と言ってから更に何日かたつての問い合わせに対して「また催促してみます。」のくり返し…こちら「もっと早く返事してもらわないと…」と言っても「はい分かりました…」と淡淡としていて、こちらの切実感が一向に伝わらないもどかしさ…。

これではこの会社は“事業改革”をする前に“返事改革”“対応改革”そして“人間改革”等のことをまず考えることから始めるべきではないかと思ったりしてしまう…。

今までは考えなくても済んだ事かも知れないが、厳しい商売の状況の今、卸も小売も注文を受けた時「自分はどんな対応が出来ているのか…」「どんな反応をしているのか…」「返事はどうか…」を、もっと見直してみたいものである。

客との人間関係で、どんな“返事べっぴん”になれるか…毎日が勝負時のこれからである。

長寿社会の中で

広報委員会 尾坂真人

5～6年前になろうか。卸の社長さんが「これからの狙い目は『金時族』ですよ」と盛んにアピールされていた。

戦後のベビーブームに生まれた、所謂『団塊の世代』が退職年齢を迎え、退職金を手に大量に仕事から解放される。住宅ローン・教育ローンからも解放され、自由に出来る『お金』と自由に使える『時間』がタツプリと有る。「これらの世代をスポーツ業界へ取り込め」の掛け声は、正に正鵠を射ている。

敗戦後直ぐの『ベビーブーム』に始まり、『ビートルズ』『受験戦争』『全共闘』『ニューファミリー』、ひょっとして『バブル崩壊』までも…。時代の変遷に大きな影響を与えて来た『団塊の世代』。これらを上手く『余暇(余生?)＝スポーツ市場』に取り込めば、当面見込まれる少子化傾向への対策(対案)とも思われた。しかし、現実に大量退職年度を過ぎて数年が経つが現状はどうであろうか…。最初に想定した期待値との兼合いも有ると思うが、「思った程お金を使わないぞ」と言った所が実体ではないだろうか。

それはそうだろう。『人生80年』と設定し、年金プラス退職金の取り崩しで人生設計を描いて見ても、『長寿国日本』では(運が悪ければ!?)90歳迄生きなければならぬ。ならば残り10年をどうやって遣り繰りして行くのか…。働くからお金を使う。使ったから働く。こう言った循環を断って、使うだけ使え、後は野となれ山となれでは、勤勉国家日本の民には馴染まない。

おまけに日本国の財政は世界でも凶抜けて借金が多い。生まれた赤ん坊がいきなり七百数十万円の借金を背負わされる国である。このままで良い

訳が無い。『出るを抑えて入るを図る』は経営の鉄則。増税プラス年金・医療費等のカットは誰もがイメージして当然であり、こう言った現状の中で人生経験豊富な高齢者が節約に努めるのはむしろ当然の事である。このままでは消費が盛り上がる訳が無い。

翻って、私たち業界に省みるべき点は無いのだろうか。日本人の年齢の中間値が48歳位と言うのに、一向に上の世代への物作り・提案が為されていない。先日もテニスボールが本来の使用目的とは異なる健康グッズとしてTV紹介され、地域によってはミニバブルを起こしたが、そう言った情報が全くと言って良い程、共有されていない。相変わらずのアスリート志向で、これでは『健康』と言う消費者の多くが描くスポーツ店へのアドバンテージも『宝の持ち腐れ』となり兼ねない。『ピンチをチャンスに』とは良く言われるが、折角のチャンスを取り逃がしている現状を思わずには居られない。

話変わるが、学生時代からの親友がガン告知を受けた。切るつもりで病院を選び入院したが切れないと言われ、かなりショックを受けていた。ややこしい部位のガンと聞き、私も些かならぬショックを受け、彼への何かの支えになればと思い手にした本に救いを覚えた。読まれた方も多いと思うが、『『ガンは痛い。辛い。』』と言われているが、その多くは切る事による術後の傷の痛み。或いは抗ガン剤(劇薬)治療による苦痛である。本来、ガンは放置しておけば、徐々に体力が落ち、自然死に近い形で逝ける」と言った内容で、著者は医療業界では異端扱いの様であるが、私としては身近なガン死の知人友人の姿に、妙に納得する

所が有り、次に親友を見舞った時には、「お前、切らなくて正解だったんじゃないか」と言ってその本を渡した。

「どうせ俺達は、後20年30年も生きられないんだから、とにかく10年粘れや。そうすれば俺達と一緒の（逝く）歳になるんだから…」。

精一杯の励ましである。

今、医療の進歩・食生活の充実などを基に、長寿・

高齢化が急速に進んでいる。しかし、その事が却って『生きる』と言う事の意味を曖昧にしている事がないだろうか。

友人のガン宣告を受け、彼と過ごした学生時代を想い、彼とだからこそ共に笑える思い出話を辿り、出来る事ならばもう一度同じ旅をしてみたいと願うのは、彼の死期をイメージするからだと思う。改めて『一期一会』の重さを、人の世の儚さを想う。

妄言多謝

大丈夫かな日本（4）

（63号からつづく）

さていよいよ現代の教育の根本、教育基本法にうつります。この法律は昭和22年3月31日に制定されたものです。その前文を示します。

我々は、さきに日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示しました。この理想の実現は、根本において、教育の力にまつべきである。我々は個人の尊厳を重じ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造めざす教育を普及・徹底しなければならない。ここに日本国憲法の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、この法律を制定する。とあります。これが教育基本法の前文です。この法律を決めた気持が書いてあり、大変格調の高い文章だと思います。そして第一条から第十一条までで出来あがっております。以下にその内容を示します。第一条（教育の目的）第二条（教育・方針）第三条（教育の機会均等）第四条（義務教育）第五条（男女共学）第六条（学校教育）

広報委員長 角前博道

第七条（社会教育）第八条（政治教育）第九条（宗教教育）第十条（教育行政）第十一条（補則）であります。

さてここで教育基本法と戦前の教育勅語の違いは何かと云うと、一つは戦前は主権は天皇にあり教育はいざと云うときには天皇のために命をささげる、そういう「臣民」をつくるためのものでした。もう一つは、国と教育理念と軸に国と教育の関係についても、大きなとらえ直しをしていることです。戦前の教育が国家目的に従属する。国家目的の手段としての教育だったのに対し、戦後の教育は、子供一人ひとりの可能性を育てることを軸としている様です。憲法においても「教育を受ける権利」が書き込まれ人間の学ぶ権利が保障されています。又「義務教育」の規定も書かれています。これは先にも書いた様に「臣民」の義務という概念と違い人権としての教育を保障する責任と義務を親が負い、国が負うということです。又大切なことは、教師の任務とその責任も子どもが学習をきちんと受けることが出来る様に考へられています。法律としては大変よく出来ている様に思

われますが、戦後流行したマルクス史観や東京裁判の影響、さらにはGHQの占領政策もあって、日本では過去を語ることに、特にその栄光の部分語ることは、ともすれば「保守反動」として退けられて来た様に思います。日本の伝統・文化を尊重するということと、宗教教育の重要性が、GHQによって修正されてしまい、日本人の精神的な拠り所として残るはずであった教育勅語は、その後廃止されてしまいました。その為に世界有数の歴史と伝統を持つ日本ではありますが、戦前と戦後に大きな断層が出来てしまった様に思います。残念なこととその為に民族としての同一性や団結心が薄くなってしまい、日本人としての自信や誇りを失った国民になってしまった様に思います。又宗教教育がおろそかにされて来た為、個人の人生において宗教がどういう重みを持つか等々、理解出来にくくなっています。戦後導入された民主主義は、自由と権利のみが声高に主張されて、その裏にある責任と義務が軽視されてしまい、「自分だけが良ければいい」という利己主義な国民になってしまった様に思います。又、マルクス主義の影響をうけた労働運動の一環として日教組が大きな影響を教育界にあたえてしまい、日本の教育を歪めて来たと思います。今現在の子供達に問題があるのではなく、その親に原因があり、その親を教えた教師（ほんのわずかもかもしれないが）の責任が大きい様に思われます。今もう一度書きますが、明治維新の頃の日本人が長い鎖国の後にもかかわらず短い時の間に世界の人々から賞賛されたのはなぜでしょうか。それは国民一人ひとりが日本人としての自信と誇りを持ち、礼節をわきまえて輝いていたからだだと思います。「温故知新」という言葉があります。我々は過去のすべてを捨てるのではなく、先人達の生き方、考え方も参考にしながら、これからの子供達に日本人としてのアイデンティティ目指すべき日本像というものをしっかり身につけさせねば明日の日本は無い様に思われます。出来ればもう一度修身の授業を教え、教育勅語の良い所を取り出してもよいのではありませんか…。



● 編集後記 ●

先日、中部ブロックの今年度の大会が6月4日愛知県の当番で行われました。土赤理事長のもと大成功の内に終わりました。愛知県の皆様の団結のすばらしさを見せて頂きました。その理由を福井県の理事長であられる竹原理事長におたずねした所、答が返って来ました。それは土赤氏が最近発行しだした、愛知県の組合紙「ふれあい」にあるのではないかと云うことです。福井県は以前から「つながり」と云う組合紙があります。かなり前から発行しており、組合員の団結の素になっていると話されておられました。だれかが中心となつてかなりの努力が必要と思われませんが、組合員の団結心を起こすのには一番良い方法の様です。私もその様に思うのですが、年に4回出すJSERARIポートの編集と責任ページをうめるが精いっぱいですが、「きずな」とでも名をつけて出してみようかな、などと思っています。

(H.K)